

1. 日時：平成29年11月29日（月） 13：00～15：00
2. 場所：中日本高速道路株式会社801、802会議室
3. 出席委員：林委員長、小川委員、奥村委員、水尾委員、山内委員
4. 議事要旨

◇評価対象の一体評価に関する説明

■第二東海自動車道横浜名古屋線（海老名南JCT～秦野）（秦野～御殿場JCT）について

○主な意見

- ・短区間ではなく、ネットワークで評価する必要がある、一体評価の方が良い。
- ・再評価の区間を変更し一体評価とする場合は、事後評価も再評価と同じ区間で評価すべきである。

◇再評価の重点化・効率化に関する審議

○中部横断自動車道（新清水JCT～富沢）の評価手法を説明のうえ審議し、原案（要点審議）のとおり了承された。

○主な意見

- ・重点審議と要点審議で同じ資料構成となっており、要点審議の資料構成については、効率化の観点から資料省略の仕方についても検討しても良いかと思う。

◇再評価（原案）の審議

○第二東海自動車道横浜名古屋線（海老名南JCT～秦野）（秦野～御殿場JCT）及び中部横断自動車道（新清水JCT～富沢）の再評価（原案）を説明の上審議し、対応方針については原案（事業継続）のとおり了承された。

○主な意見

■第二東海自動車道横浜名古屋線（海老名南JCT～秦野）（秦野～御殿場JCT）

- ・当該区間の開通による効果は非常に大きく、計画どおりの開通を目指して進めていただきたい。
- ・新東名は特に重要度が高い幹線道路であり、早期開通に向け引き続き自治体の協力を得ながら進められるとよい。
- ・物流効率化の支援については、次回整理する際には静岡等から首都圏方面に出ていくメリットだけでなく、首都圏から静岡に集まってくるようなメリットにも着目してはどうか。
- ・4車線完成後に2車線を追加整備する場合の費用増や地域の声を踏まえ、6車線化をどのように考えていくのか検討が必要ではないか。

■中部横断自動車道（新清水JCT～富沢）

- ・今後の高齢化により、観光や医療の効果は大きくなることから、3便益以外の効果についても数値化して評価できるよう検討していくことが必要。

◇事後評価（案）の審議

○第二東海自動車道横浜名古屋線（御殿場JCT～浜松いなさJCT）の事後評価（案）を説明のうえ審議し、対応方針については案（今後事後評価の必要なし）のとおり了承された。

○主な意見

- ・東名・名神が日本の経済成長を支えてきた。新東名・新名神は、次の世代に残す大きな資産である。大規模災害時における役割など、新東名・新名神が将来の大きな力になることを期待している。
- ・維持管理段階においても常に時代にふさわしい道路の使われ方を考え、新しい価値を加えていくことも考えていくべきである。

以 上